



あした

## 明日もしあわせ通信 (第74号) 令和4年8月号

### 令和3年度から 利用者支援事業を開始しています!

子育て中の「こまったな!」「どうすればいいの?」を  
地域子育て支援コーディネーターに相談してみませんか



- ★ 相談内容に応じた子育てサービスを紹介し、必要な機関に繋がります。  
地域子育て支援コーディネーターが紹介先に同行することも可能です。

地域子育て支援コーディネーターとは?

### お気軽にご相談くださいね!

### 「ちょっと話してみませんか?」

地域子育て支援コーディネーターは、身近な場所で子育て期のいろいろな悩みごとや困りごと等について、「なぜその悩みが生じているのか」「それなら今後どうしたらいいか」ということを相談者と一緒に考え皆様の生活に寄り添っていく役割を担っています。

必要な情報を調べ提案したり、適切な専門機関を紹介したりしながら、皆様の気持ちに寄り添いながら相談支援を実施していきます。

伊予市のホームページでもご案内しています。ぜひご活用ください。

### 適応指導教室「はばたき」

### 夏休みの「ゲーム依存」や「YouTube 依存」に注意

子どもたちは元気に1学期を終了し、楽しみにしていた夏休みをゆとりをもって元気に過ごしています。しかし、夏休みはどうしても子どもだけで過ごす時間が長くなり、大人の管理がない中でゲームやYouTubeなどで長時間を過ごす子もいます。よく聞く「ゲーム依存」や「YouTube 依存」は遠くの県の話ではなく、年々増加しています。ゲームは自分で時間を決めて活用できるようにすることが大切です。そのためにも「自分だけの大切な生活表」を自分で作り、それを見て生活できるように子どもに働きかけてみてください。

また、ゲームやYouTubeに頼らずに「長い休みだからこそできることや、やってみたいこと、子どもの興味や関心のあることに取り組みしてみるのも子どもが意欲的になり、充実した夏休みを過ごすことに繋がります。

子どもたちの生活リズムや過ごし方について見守っていただき、42日間の休みを有意義に過ごしてほしいと思います。



慎重で怖がりな、感覚過敏の孫が5歳になった。感覚過敏で帽子をかぶることさえこずった孫。浮き輪から腕の浮き輪に変えるにも時間がかかり、それでも、腕の浮き輪が気に入ると、他の子の真似をして、目をつむってジャボーンと潜る。楽しさを知り、そんな姿を見せてくる。

水を怖がらなくなったので次は、ゴーグルをさせたいがこれがまた一苦勞。自分でゴーグルを選ばせ購入。装着出来たらソフトクリームを食べようと提案。アイスに釣られて装着するが、すぐに外そうとする。「ちょっと写真撮るからそのままだね」「はいパチリ」と少しでも長い時間装着し慣れさせる。

1か月後、プールへ向かう車の中。ゴーグル装着写真を見せながら、「カッコイイ写真だね」とばあばもゴーグルをつけ、二人でウルトラマンごっこ。プール前の装着学習も完璧。

プールに入るなりゴーグルを着けて、プールヘッドボーン。目も開けられるようになったことで息継ぎまでの時間も長くなる。プハアと顔を上げ「できたア!」と、どや顔を見せる。

この自信が次の一步に着実につながりそうです。今年は、いつもの夏よりたくましくなっていく孫の顔が楽しみです。(1)



### 《センター長のつぶやき》

最近の読書から(5)「青春を山に賭けて」

植村直己 著

植村直己さんは、明治大学山岳部で山の魅力にとりつかれ、23歳で片道の船賃だけでアメリカへ。

ブドウ農園でお金を貯め、フランスとイタリア国境にあるモンブラン登頂を目指した。

しかし、クレパスに落ち、登頂を断念。あきらめることなく、近くの村でスキー場のパトロールをしながらお金を貯め、5大陸最高峰(①モンブラン②キリマンジャロ③アコンカグア④エベレスト⑤マッキンリー)登頂に挑戦。27歳で日本に帰ってから歩みを止めず、29歳までにエベレスト以外は単独で登頂してしまった。

その後、グリーンランド3000km、北極圏12000kmの犬ぞり単独行など成し遂げ、35歳でこの「青春を山に賭けて」を著した。

43歳で冬のマッキンリー単独登頂に成功し、その下山中に消息を絶ち、帰らぬ人となった。

彼は、感謝の念をいだきながらも、人生を生きたいように生きた。

もうすぐ私も70歳になる。しがらみから抜け出し、生きたいように生きる時が来るように思う。(DOIG)



### コロナの影響 その①

コロナ禍で以前のような生活が出来なくなり、3年目を迎えています。子ども達の中に少なからず影響が出てきていると感じるこの頃です。

行事を全体で出来なくなり、中止を余儀なくされました。つまり、この2年は行事の際に年長のかっこいい様子を見たり、練習は大変だけど終わってから充実感を持ったりがなくなっていました。

経験が乏しく、年上の子の見本もない状態になっています。どうしても、以前の様子を知っている大人は物足りなさを感じてしまいます。

でも、子ども達のせいではないのです。そういう時期に育つことになってしまったのです。

「ふつうは〇歳ならこのぐらいのことは出来て当たり前。」は通用しません。まわりの大人はそのことを頭にしっかりと入れて、学んでないならひとつひとつ教えて行って欲しいです。この年齢の子におかしいと思いながらも未学習の子に学習させてあげようと考え方の舵をしっかりと変える必要が出来てきました。大人の覚悟が必要となっています。(A)



伊予市子ども総合センター  
〒799-3127 伊予市尾崎3-1  
伊予市総合保健福祉センター2階  
☎089-989-6226